

口は健康のもと Vol.147

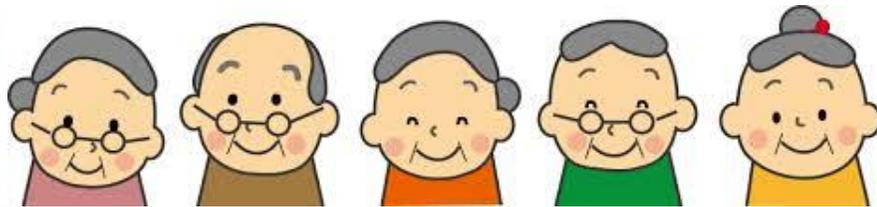
高齢者の入れ歯 ～人によっていろいろ～

歯が1本もない患者さんの場合、食べ物を咀嚼(そしゃく)するための舌の左右運動や、磨りつぶしをする下顎の運動がみられなくなり、舌を上下させることによる押しつぶし運動が増加します。この時点で普通食の摂取は困難になり、食べ物は押しつぶして食べるようになります。

口腔機能に障害がない高齢者に対して入れ歯を作るとき、噛める入れ歯を作るのは当然です。しかし、咀嚼機能が低下して舌による押しつぶしだけで食事をとっている場合など、噛む必要のない入れ歯を作らざるをえない場合もあります。筋力低下のため舌に運動障害がある患者さんは舌と口蓋(こうがい)(口腔内の上壁)が接しにくくなるので、押しつぶしが困難になります。そのような場合、入れ歯、特に総入れ歯の患者さんには、噛める入れ歯ではなく、食べ物を押しつぶすための入れ歯を作ります。噛むのに理想的な噛み合わせより低く噛み合わせた入れ歯のほうが舌と口蓋の距離が短くなるので、食べ物の押しつぶしや送り込みが容易になります。

押しつぶしを助けるもう一つの方法に「舌接触補助床」という補綴物があります。上の入れ歯の口蓋部を厚くして舌と口蓋部の距離を近づけることで接触を補助し、食塊の移動や送り込みを容易にすることを目的としています。

入れ歯で食事に不安のある方は歯科医師にご相談ください。



奥羽大学歯学部附属病院
総合歯科 教授 寺田 善博

